

**ぼうさいこくたい2024
多様な主体と連携した社協における
災害支援の取り組み**

**経団連の災害支援の取り組みの紹介と
多様な主体との連携促進に向けて**

2024年10月19日
(一社) 日本経済団体連合会
ソーシャル・コミュニケーション本部
萬屋 隆太郎

I. 企業と経団連の被災者・被災地支援活動の沿革

経団連における社会貢献活動部署の設置

1990年 社会貢献推進委員会（現・企業行動・SDGs委員会）

社会貢献活動の体系化、自社らしい社会貢献活動の模索、NPO・NGO等との対話

1991年 1%（ワンパーセント）クラブ（現・経団連1%クラブとして委員会組織に再編）

経常利益の1%以上を社会貢献活動に充てることに努める趣旨に賛同した企業の集まり。
ボランティア体験プログラムの提供やチャリティイベント等を開催

企業の災害支援活動への関与

1995年 阪神大震災における救援活動

寄付・物資提供、チャリティイベント開催、有志ボランティア参加

⇒ **ボランティア元年**

2011年 東日本大震災復旧・復興支援

寄付金付き商品の企画、調理機能付き車両（キッチンカー）派遣
避難先への自社製品のお届け（安否確認を兼ねる）、
社員ボランティアバス企画の立案

⇒ 自社の**強みを活かした支援**



Ⅱ．災害ボランティア活動支援プロジェクト会議



支援P

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

設立・・・2005年1月

事務局・・・社会福祉法人中央共同募金会

- ・2004年の新潟中越地震における災害ボランティア活動を検証するなかで、多様なセクターとの協働によるボランティア活動支援を進めるべく設立。
⇒主にヒト、モノ、カネ、情報などによる災害ボランティアセンターの運営支援を実施
- ・企業、経団連、青年会議所、JVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）、災害支援NPO、社会福祉協議会、共同募金会関係機関によるネットワーク組織
- ・財源は企業等からの寄付金

ヒト

- ・災害ボランティアセンターへの運営支援者の派遣
- ・災害ボランティア活動ならびにプロボノとしての支援

モノ

- ・災害ボランティアセンターが必要とする資機材や車両などの提供支援。
- ・災害ボランティアセンターが被災者のニーズ調査の際に持参する物資（うるうるパック※）の提供支援。※被災者が必要とする日用品等
⇒経団連1%クラブから会員企業に呼びかけ

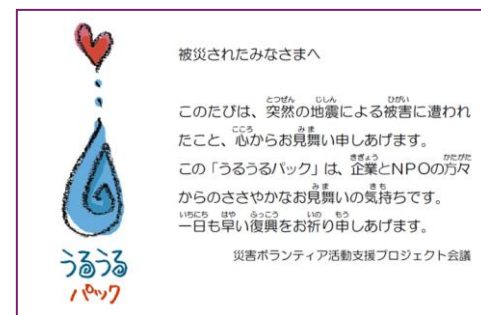
カネ

- ・支援Pの運営支援者派遣や、中長期的な被災地主体の復興支援に係る費用について、企業等からの寄付を活用。
⇒経団連1%クラブから会員企業に呼びかけ

Ⅲ. うるうるパック

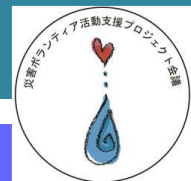
- 被災地域の方々が必要とする物資を一旦域外で集約し、各世帯に配付できるように小分けパックしてお届けするもの。
- 災害ボランティアセンターによるニーズ調査時など、被災者の方々とのコミュニケーションの円滑剤、被災者を応援する心を届ける手段として、知恵と工夫を凝らして配付。
- メッセージカードを通じて被災者・被災地を応援する気持ちもお届け。

【2016年熊本地震におけるうるうるパックの作成・お届け事例】



- 熊本県内自治体の社会福祉協議会からの依頼を受け、約10,650パックを作成。
- 仮設住宅への引越し、災害ボランティアセンターから地域支えあいセンターへの移行時など、時機に合わせて被災世帯へお届け。
- 訪問をきっかけとした支援ニーズの掘り起こしにも寄与。

IV. 学用品うるうるパックのお届け（能登半島地震）



1. うるうるパックとは

- ◆ 「うるうるパック」とは、被災地域の方々が必要とする物資を、被災地外で小分けに詰めたうえで、被災者の方々に届ける救援物資 ※東日本大震災や熊本地震の際にも実施
- ◆ 経団連1%クラブは「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）」と連携し、令和6年能登半島地震の支援活動の一環として、①被災地（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町、志賀町）の小学生（27校・約2,000人）への「学用品うるうるパック」のお届けを企画

2. 会員企業への協力依頼（2024年4月11日～22日）

(1) 物品・資金の提供

- 文房具類（ノート、ボールペン等）の提供
- パック作成に必要な物品購入や現地配送費用等の支援

(2) 袋詰め・梱包作業 ボランティア

- 5月14日（火）12-14時、17時30分-19時30分の2部制（於：経団連会館）

(3) 応援メッセージカード 記入ボランティア

- うるうるパックに添付する、小学生への応援メッセージカードへの記入

3. 協力企業一覧（計37社）

アズビル／NECグループ／MS&ADインシュアランス グループ／キヤノン／協和キリン／キンドリルジャパン／コクヨ／清水建設／住友化学／住友金属鉱山／ソフトバンク／損害保険ジャパン／SOMPOホールディングス／第一三共／中外製薬／dentsu Japan／東洋建設／トヨタ自動車／中日本高速道路／ナブテスコ／日清製粉グループ本社／日本アイ・ビー・エム／日本生命保険／日本たばこ産業／野村ホールディングス／パイロットコーポレーション／パナソニック ホールディングス／BTジャパン／BNPパリバ／ボッシュ／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行／三井住友海上プライマリー生命保険／三菱鉛筆／三菱重工業／三菱電機／ヤマト運輸

4. 会員企業による協力

(1) 物品・資金提供 (約2,000パック作成)

- 文房具 (クリアファイル、ノート、付箋、ボールペン、消しゴム等) **計15種類**
- 物品購入・配送に必要な資金



(2) 袋詰め・梱包作業ボランティア

- 5月14日に作業実施(於：経団連会館)
- 29社と経団連事務局から、**約230名**が従事



(3) 応援メッセージカード記入ボランティア

- 11社と経団連事務局のボランティアが
約2,000枚の応援メッセージカードを**手書き**で記入

メッセージカード



十倉会長



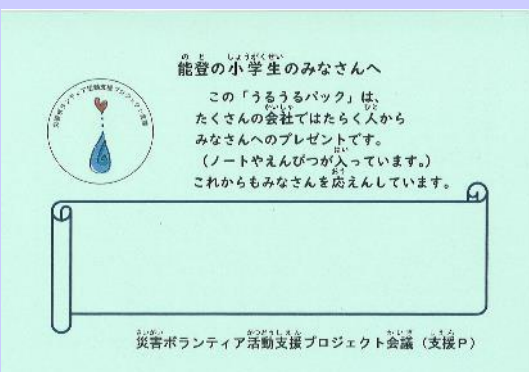
十倉会長の
メッセージカード



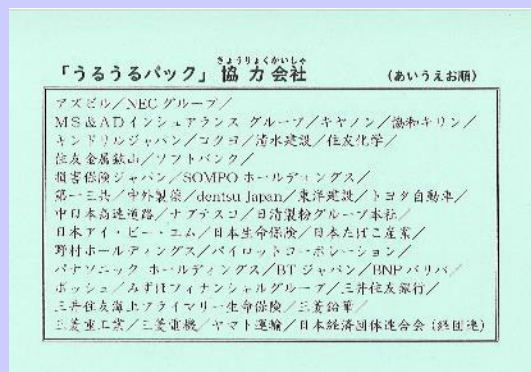
中山 企業行動・SDGs委員長
(第一三共常勤顧問)



西澤 企業行動・SDGs委員長
(損害保険ジャパン顧問)



表面



裏面
(協力企業一覧を掲載)

5. 被災地小学校へのお届け

- ◆ 5月21日に、経団連1%クラブの福田里香座長（パナソニック ホールディングス企業市民活動担当室アドバイザー）が被災地（輪島市、珠洲市、能登町、志賀町）の小学校計4校を訪問し、うるうるパックを生徒代表に直接お渡し
- ◆ その他の23の小学校には5月22日に配送によりお届け

志賀町 志賀小学校

生徒の声：「あっ、これかわいい！」「うれしい！」「自慢しよう！」



輪島市 門前東小学校

生徒の声：「普段すぐには買えないものもあり、こうやってもらえるとすごくうれしいです。大切に使います。ありがとうございました。」



能登町 ^{うしつ}宇出津小学校

生徒の声：「ありがとうございます！」



珠洲市 ^{ただ}直小学校

生徒の声：「珠洲市も少しずつ復旧に向けて頑張っています。僕たちもいただいた文房具で勉強をもっと頑張ります。本当にありがとうございました。」



能登町 松波小学校（配送によるお届け）

校長先生からのお礼（Eメール）：「今回、皆様方からいただいたご支援は、大変ありがたく、子どもたちの明るく前向きな気持ちにつながっていると思います。たくさんのご支援、本当にありがとうございました。」

V. 災害ボランティアセンターを支えるボランティアプログラム（能登半島地震）

- ◆ 能登半島地震被災者の生活再建に向けて、GW期間には多くのボランティアによる活動が期待されているなか、その核となる**災害ボランティアセンターの人材不足が大きな課題**
- ◆ 「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）」(※)は、企業人ボランティアをGW期間中に被災地に派遣すべく、**「災害ボランティアセンターを支えるボランティアプログラム」を実施**
- ◆ 経団連は支援Pの幹事団体として、会員企業社員の皆様へのご案内・ご参加呼びかけ等に協力

※企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等が協働し、被災地及び被災者主体のボランティア活動を支援する組織。大規模災害では被災地に運営支援者を派遣。

< 「災害ボランティアセンターを支えるボランティアプログラム」の概要 >

主催	災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）	
活動期間/ 参加人数	第1クール：4/25（木）-4/28（日）【3泊4日】 第2クール：4/27（土）-5/1（水）【4泊5日】 第3クール：4/30（火）-5/4（土）【4泊5日】 第4クール：5/3（金）-5/6（月）【3泊4日】	各クール:約15名 （総勢21社・団体*から 約60名参加）
活動場所	珠洲市、七尾市の災害ボランティアセンター	
活動の特色	① 災害ボランティアセンターの運営サポート 業務を実施 （例：資機材管理、ボランティア受付、現地調査同行等） ②GW期間中、約15名／クールの企業人ボランティアが バトンリレー方式で活動	

*参加企業・団体：MHI、NUSEC、MHI パーソネル、MHI ファシリティーサービス、エリクソン・ジャパン、小野薬品工業、カシオ計算機、キヤノン、第一三共、第一三共ヘルスケア、高島屋、田辺三菱製薬、電通、電通コーポレートワン、東京海上日動火災保険、日本経済団体連合会、パナソニック、富士通ボッシュ、三井住友銀行、三菱重工エンジン&ターボチャージャ、三菱重工業

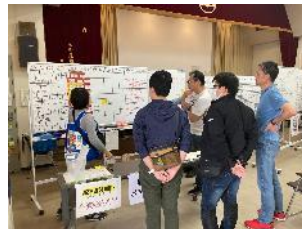
V. 災害ボランティアセンターを支えるボランティアプログラム（能登半島地震）

ボランティアプログラム 活動の様様

【オリエンテーション・引継ぎ】



ボランティアセンターに到着後、センター関係者から現地状況や活動概要について説明を聴取。



前クールの企業人ボランティアから具体的な活動内容を引継ぎ

【ボランティアセンター運営支援】



ボランティア登録者に対し、活動案件の割り振りや具体的な案件を説明



ボランティア登録者に対し、ヘルメットやゴーグル等資材の貸出・返却の対応



活動先から搬出された廃棄物の分別作業を管理（解体・分別作業に加え作業場の設営、準備、廃棄物の分別判断等）



災害ボランティア車両の高速道路無料化措置に必要な書類発行、各種マニュアル作成

【参加者からの感想】

- ・ ボランティアでイメージするような力仕事には自信がなかったが、ボランティアセンターの運営支援という形で復興に関われると聞いて参加申込した。このような貴重な機会をありがたく思う。
- ・ 一緒に参加した皆さんが真摯に物事に当たる方々で、大変勉強になった。ふるさと納税など、これからも応援できることはまだまだあるように思える。
- ・ ボランティアセンターの運営では、状況に応じた柔軟かつ臨機応変な対応が求められると感じた。

ボランティアセンターへ寄せられる期待との葛藤

- あまり役に立てなかったのではないか、という声
- ボランティア参加者の方が詳しいこともある

ボランティアセンター支援初心者でもできることに徹する

- 災害ボランティア初体験の人が約6割
- 毎日が成長の機会、体験の引継ぎ

必要だが大変な「段取り」づくり

- 何か起きたらどうしようという緊張
- きっかけや後押しを通じて一步踏み出す人もいる
- 前例として多くの企業が活用することに期待

資金提供も大事な被災地支援

- 寄付先の検討にあたり一考を
「ボランティアセンター支援」の認知度